

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域多文化共生人材育成事業
事業の目的	今後も外国人の受け入れによる人数増加や定住化傾向が高まると考えられ、地域で暮らす外国人に、日本語習得のみならず、様々な日本文化も理解してもらいたい。指導者からの一方的な詰め込みではなく、お互いの文化を享受するための機会として、地域日本語教室の役割は大きい。そこで学び得たものを生活者として、どう活かしていくかを学習者も指導者も考える場として、この事業に取り組む。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	子どもを連れて再来日する家族や日本での生活が安定してきたため、家族を呼び寄せたり、依然として実習生や配偶者の在住など様々な背景をもつ外国人が増えている。また、減少していた日系ブラジル人が昨年度から増加傾向にある。子どもを対象とした教室は、就学前～高校進学まで、当協会が(別事業で)全て担っており、保護者は、子どもの育成に大きく関係することから、日本語教育に関心を持ち、入室の手続きを積極的に行う。そして、継続的に通わせる。しかし、成人の日本語教室は、どうしても仕事や教会を優先され、継続的に出席しない。生活者として地域に暮らす場合、様々な日本文化も理解してもらいたいと願うが、来てもらいたい(学習しなければならぬ)学習者ほど、来ないという現状がある。運営側の体制として、コーディネーターも指導者もサポーターも教室に関わる人すべてが、どうしたら学習者が継続して学習しに来るのかということを考え、学習者は、どういうことを学習したいのかという発信の協力があってこそ、教室が成立するのではないかと考えている。全員が一丸となって、日本語教室を作っていかなければならないのではないかと考えている。
本事業の対象とする空白地域の状況	岐阜県加茂郡坂祝町。 坂祝町は、パジェロ工場などがあり、在住外国人は約500人、人口比率としては、6%で岐阜県内第2位。(参考:1位美濃加茂市、2位坂祝町、3位可児市) H28年度末、行政に働きかけを行った。在住外国人の日本語教育の場は必要だと感じておられ、日本語教室を作ることに向きな姿勢を感じた。但し、ノウハウがないため、まずは、当協会が本事業で体制を作り、今後はスタートアッププログラムへつなげ、自立して日本語教室を作っていく方向で話がまとまった。
事業内容の概要	[取組1: 地域多文化共生人材育成推進委員会] ☐ ポートフォリオに保管する内容物の作成 ☐ CanDoリスト ☐ ポートフォリオの取り組みを考察する会議の開催 [取組2: 日本語教室] ☐ 土曜日日本語教室(19:00～20:30) ☐ 日曜日日本語教室(13:30～15:30) ☐ 中上級者向け日本語教室(15:45～16:45) ☐ 子育ての日本語教室(土・日10:00～12:00) [取組3: 災害時に伝わる「やさしい日本語」](再委託) 自治会や施設の避難訓練に参加するなど、体験型のワークショップを通じて、防災意識を高めながら、緊急時に必要な情報伝達と日本語を学習した。体験型ワークショップを多文化演劇ユニットMICHIGIが中心になり、可児市防災の会や自治会など、その他団体と協力しながら企画運営、さらに外国人住民に伝わる「やさしい日本語」についても考え、検証した。 [取組4: 成果発表会] 本事業の取組を各教室毎にコーディネーターや指導者、学習者が一年の成果を発表した。
事業の実施期間	平成29年6月～平成30年3月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク
2	小島 祥美	愛知淑徳大学
3	松井 かおり	朝日大学
4	桂川 弥代	岐阜県国際交流センター
5	加藤 エジソン	可児市役所
6	登田 アンナ	坂祝町役場
7	山田 久子	多文化演劇ユニットMICHIGI
8	各務 真弓	可児市国際交流協会
9	近藤 利恵	可児市国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年7月28日 (金) 10:00～12:30	2.5時間	可児市 多文化共生センター フレビア	松井かおり、桂川弥代、 加藤エジソン、登田アンナ、 山田久子、各務真弓、 近藤利恵	1.運営委員紹介 2.今年度の各取組の検討
2	平成30年1月19日 (金) 10:00～12:30	2.5時間	可児市 多文化共生センター フレビア	米勢治子、松井かおり、 加藤エジソン、登田アンナ、 山田久子、各務真弓、 近藤利恵	1.各取組進捗状況 2.各取組の課題検証 3.成果発表会について

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	運営委員は、行政、日本語教育専門家、研究者、演劇関係者、空白地域の関係者で構成される。 取組1で取り組むポートフォリオの作成は、在住外国人、学習者を人材的に認めていく地域の企業や行政の理解が不可欠となるため、常に連携や協力をしていた。 取組4の成果発表会は、本事業の成果発表の場であり、1年間、見本市を目指して取り組み、当年度、連携・協力をいただいた地域の企業や行政にも来場していただき、評価を求め、次年度へとつなげた。
------	--

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	各取組に中核コーディネーターを一人配置した。 中核コーディネーターは、教室の企画運営を行う。必要に応じて、外部講師を招いたり、地域とつなげられる人材を招き、日本語学習者につなげた。各取組(各教室)も取組1のポートフォリオの作成に関わり、各取組がつながりをもって、実施できるよう、中核コーディネーター会議で実施状況を共有し、運営委員会にフィードバックをして、検証を重ねた。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		地域多文化共生人材育成推進委員会							
	取組の目標		ポートフォリオの作成 及び 評価テストの検討							
	取組の内容		学習者が継続して日本語教室に来るためには、学習したことが活かせること、学習したことが、地域社会に認めてもらえることではないかと考えた。昨年度までは、それを（仮称）認定証という形で表わそうとしたが、会議を重ねていくうちに、ポートフォリオという形で管理し、評価テストでレベルを測るのはどうかという意見でまとまった。今年度は、それを引き継ぐ形で以下のとおりで実施した。 □中核コーディネーターによるポートフォリオの検討及び作成 CanDoリストの作成を行い、従来の日本語教室の授業内容を見直した。 全教室（①土曜日②日曜日③中上級）がCanDoリストに取り組み、それを全教室共通の一冊のファイルに綴じていく。学習者一人一人に個人No.をつけ、ファイルを貸与した。 CanDoリストは、まず今日のトピック（テーマ）を掲げ、それについて、日本語でできることを3項目に細分化し、問いかける。授業前と授業後同じ質問をし、できるようになった事柄を明確化した。 □学習者の日本語力を評価する方法を検討 テストを受けて評価することより、まず、ポートフォリオでの自己評価、学習者自身が振り返ることに よって、もっと学習したいという気持ちを大事にすることにした。 □以下の会議を定期的に行う。会議では、ポートフォリオ実施の意義を共有化した。 ①中核コーディネーター会議 ②行政会議 ③学習者（個人によるヒアリング形式）							
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	空白地域の担当者もメンバーとなり、会議に参加する予定だったが、メンバーである運営委員会の場で、検証することにした。							
	取組による体制整備		日本語教室に関わる全員が、ポートフォリオ作成に向け、体制を盛り上げた。学習者にも取り組む意義を理解してもらい、積極的に意見を出してもらうなど、外国人も巻き込んだ取り組みにした。							
	取組による日本語能力の向上		特になし							
	参加対象者		日本語教室関係者、行政、学習者				参加者数 （内 外国人数）		7人 （3人）	
	広報及び募集方法		日本語教室での呼びかけ、メール							
	開催時間数		総時間 12.5時間（空白地域 0時間）							
	主な連携・協働先		可児市役所、地域住民、日本語教室 他							
参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国		ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
							1			2
日本 4人										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	2017年6月1日（木） 9:30～11:00	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・今後の見通し ・ポートフォリオ開始にあたって検討		近藤利恵 菰田さよ	－	
2	2017年7月20日（木） 10:00～11:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・CanDoリスト開始、振り返り 改善すべきところ検証		近藤利恵 菰田さよ	－	
3	2017年10月16日 （月） 13:00～14:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	4	行政会議	・現在取り組んでいるポートフォリオ について、進捗を確認。 問題点や改善点を検証。		近藤利恵 各務眞弓 中村裕 （加藤エジソン）	－	
4	2017年10月16日 （月） 18:00～18:30	0.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・行政会議を受けて、取り組みの 振り返り、検証		近藤利恵 菰田さよ	－	

5	2017年12月8日(金) 10:00～13:30	3.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・今年度中間進捗、振り返り、検証 ・ポートフォリオを今後、どう活かすか	近藤利恵 菰田さよ 各務真弓 山田久子	—
6	2017年1月20日(土) 10:00～11:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・運営委員会を受けて、取り組みの 振り返り、検証	近藤利恵 菰田さよ	—
7	2017年2月22日(木) 10:30～12:00	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	2	中核 コーディネーター 会議	・今後の体制について ・日本語教室のあり方	近藤利恵 菰田さよ	—
8	2018年1月28日(日) 12:30～13:30	1	可児市 多文化共生センター フレビア	2	学習者への ヒアリング	・ポートフォリオの取り組みについて、 1年間どうであったか、 成果と課題を聞き取った	近藤利恵 吉田よしえ カミリング・マルジ	ダ・パンタヨス・ エリザベス サンタナ・ サントラ

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 2017年10月16日】

中核コーディネーター会議で議論したことを行政会議で検討し、検討内容をまた中核コーディネーター会議にフィードバックし、議論し、実施につなげた。

○取組事例②

【第1回 2018年1月28日】

学習者全体で会議すると、なかなか本音が聞き出せないで、一対一のヒアリング形式で、ポートフォリオの取り組みについて感想を聞いた。質問と応答の内容は、以下のとおりだった。

【学習者A: フィリピン】

＜1＞日本語教室で使っているポートフォリオについてどう思いますか。

⇒教室では、一歩ずつ進めるように教えてくれます。勉強したことを覚えられなくても、ポートフォリオがあるので、思い出すことができます。例えば教室が終わった後で、家でもう一回見直すことができます。

＜2＞もし、ポートフォリオの取り組みを地域の方々に周知させたら、どう思いますか。

⇒周知させていただいても大丈夫です。ポートフォリオを見たら、この人、勉強したんだなと思ってくれるのではないかと思います。

＜3＞授業構成について、一つの授業の中で、いろんなトピックを学習した方がいいか、一つのトピックで進めた方がいいか。

⇒一つの授業で一つのトピックの方がいいです。主なトピックだけに集中できるからです。

【学習者B: ブラジル】

＜1＞ポートフォリオは、以前はありませんでしたが、今年、取り組んで、どうでしたか。

⇒私は、とても大事なことだと思います。このポートフォリオを見ることで、自分は、どのぐらいのレベルを学習しているのか、自分の成長を確認することができます。

＜2＞私たちは、地域の企業にポートフォリオの取り組みについて発信し、皆さんのことを知ってもらいたいと思っています。企業の方たちは、私たちのことを知らない。紹介もできない。ポートフォリオがあると、どのぐらい一生懸命日本語を学んでいるか、わかる。だから、ポートフォリオの取り組みは、役に立つと思います。ポートフォリオがあると、日本語を学んでいる気がします。ファイルを見て、何を今、学んでいるのか、これから学ぶのか、学んだのかが、分かります。一歩ずつのペースで学んでいます。少しずつ学んだことを日常に活かします。学んだことは、全て、ファイルに収めていきます。それがいいと思います。



(2) 目標の達成状況・成果

今年度、試行的にCanDoリスト、ポートフォリオの取り組みができた。従来は、教室全体で動かしていたのが、このポートフォリオで学習者一人一人を見てあげられるようになった。CanDoリストは、授業で取り扱う大きなテーマを掲げ、今日やれるようになる3項目に、まず、今現在の自分の評価を3段階でつけ、授業を受けた後にも、同じ項目に評価をする。そして、授業の感想を書き、それに対して、支援者がコメントを残す。学習者は、次回、支援者のコメントを楽しみにしており、まるで交換日記のようになった。ポートフォリオは、3つの教室[(1)土曜日(2)日曜日(3)中上級]共通して、一冊、個人ファイルとして管理した。出席表も貼付されているため、出席したらスタンプがたまり、来た分だけ、CanDoリストのプリントが増え、重みも増し、達成感になっていった。年度後半慣れてくると、学習者が事前にCanDoリストを取りに来て、日本に来たばかりの同じ言語の学習者に、今日やることや記入の仕方を説明しておいてくれるようになった。指導者の意見としては、CanDoリストを作っていくうちに、授業で、焦点をあてるところが整理できる。毎回、この教室に来れば、何が分かるようになる。今日学習することが可視化することで、学習者と統一、共有ができる。コメントは、指導者と学習者とのつながりになっている。ということだった。また、前年度と比較は出来ないが、よく来ている学習者が目立つようになってきた。

(3) 今後の改善点について

CanDoリストで、授業前と授業後の評価に変化がなかったり、評価が下がった学習者に直接的にフォローができなかった。また、ポートフォリオは自己ファイルであって、学習者自身が振り返り、次回の日本語教室で、上がるように取り組めばいいのだが、それを教室にフィードバックしたり、共有はまだまだである。今後、その機会を作ったり、評価をどのように授業運営に生かすか検討したい。ポートフォリオの取り組みについては、次年度、行政や地域の企業に発信し、周知していく予定でいる。

〔日曜日〕 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	19	22	1	0	51	9	1	29
	日本(3人)、パキスタン(1人)、イギリス(1人)、フランス(1人)、アメリカ(2人)、ペルー(1人)、カンボジア(2人)							
〔中上級〕 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	15	10	0	1	14	7	0	3
	台湾(1人)、日本(2人)、パキスタン(1人)、イギリス(1人)、アメリカ(1人)、ペルー(1人)、カンボジア(2人)、不明(1人)							
〔子育て〕 参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
					46			5
実施内容〔土曜日〕								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年6月3 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	20	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(あ～さ) 会話：自己紹介をする 休みの電話をする 病院の先生と話す	大野伸次 大澤まゆみ 細野高宏 佐藤有莉	－
2	平成29年6月17 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	18	文字・語彙・会話	おでかけ演劇ワークショップ	〔講師〕 (森さゆ里 (文学座))	大野伸次 大澤まゆみ 菰田さよ
3	平成29年6月24 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	20	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(た～は) 会話：お店でたずねる 好きな場所 薬の飲み方	菰田さよ 大野伸次 田牧恵子 細野高宏	－
4	平成29年7月1 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	24	会話	会話：売り場をたずねる レストランで注文する 経験を話す	菰田さよ 大野伸次 大澤まゆみ	－
5	平成29年7月8 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	22	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(ま～わ) 会話：予約をする 荷物を送る 意見や感想を言う	大野伸次 田牧恵子 佐分巧尚 内田 貴子	菰田さよ
6	平成29年7月22 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	23	文字・語彙・会話	文字：カタカナ(ア～サ) 会話：電車の乗り方を聞く 欲しいものを言う アパートを探す	大野伸次 田牧恵子 佐藤有莉 細野高宏	菰田さよ
7	平成29年7月29 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	13	文字・語彙・会話	文字：カタカナ(タ～ハ) 会話：友達を遊びに誘う お願いをする 道を尋ねる	大野伸次 大澤まゆみ 細野高宏 内田 貴子	－
8	平成29年8月5 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	11	文字・語彙・会話	文字：カタカナ(マ～ワ) 会話：冠婚葬祭 相手がOKか聞く パーティーの買い出しをする	大野伸次 大澤まゆみ 細野高宏	菰田さよ
9	平成29年8月19 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	22	文字・語彙・会話	文字：カタカナ復習 会話：家族の話 料理の作り方 地震が起きたとき	大野伸次 細野高宏 佐藤有莉	菰田さよ
10	平成29年8月26 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	27	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(あ～さ) 会話：自己紹介をする 休みの電話をする 病院の先生と話す	大野伸次 田牧恵子 細野高宏 内田 貴子	菰田さよ
11	平成29年9月2 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	34	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(た～は) 会話：お店でたずねる 好きな場所 薬の飲み方	菰田さよ 大野伸次 大澤まゆみ 佐分巧尚	－
12	平成29年9月9 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	25	文字・語彙・会話	会話：売り場をたずねる レストランで注文する 経験を話す	大野伸次 大澤まゆみ 佐分巧尚 佐藤有莉 内田 貴子	菰田さよ
13	平成29年9月30 日(土) 19:00～20：30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	27	文字・語彙・会話	文字：ひらがな(ま～わ) 会話：予約をする 荷物を送る 意見や感想を言う	菰田さよ 大野伸次 大澤まゆみ 佐分巧尚 内田 貴子	－

14	平成29年10月 14日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	34	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(ア～サ) 会話:電車の乗り方を聞く 欲しいものを言う アパートを探す	菰田さよ 大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 林里美	—
15	平成29年10月 21日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	32	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(タ～ハ) 会話:友達を遊びに誘う お願いをする 道を尋ねる	大野伸次 大澤まゆみ 細野高宏 佐分巧尚 佐藤有莉	菰田さよ
16	平成29年11月 11日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	21	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(マ～ワ) 会話:冠婚葬祭 相手がOKか聞く パーティーの買い出しをする	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子	菰田さよ
17	平成29年11月 18日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	20	文字・語彙・会話	文字:カタカナ復習 会話:家族の話 料理の作り方 地震が起きたとき	大野伸次 大澤まゆみ 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子	菰田さよ イザベラ・キハ ラ・ゴメス
18	平成29年11月 25日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	16	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(あ～さ) 会話:自己紹介をする 休みの電話をする 病院の先生と話す	大野伸次 田牧恵子 細野高宏 佐分巧尚	菰田さよ
19	平成29年12月2 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	18	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(た～は) 会話:お店でたずねる 好きな場所 薬の飲み方	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子 平林道子	菰田さよ
20	平成29年12月9 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	15	文字・語彙・会話	会話:売り場をたずねる レストランで注文する 経験を話す	菰田さよ 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子	—
21	平成29年12月 16日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	16	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(ま～わ) 会話:予約をする 荷物を送る 意見や感想を言う	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 平林道子	菰田さよ
22	平成30年1月13 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	20	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(ア～サ) 会話:電車の乗り方を聞く 欲しいものを言う アパートを探す	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子 徳竹礼圭	菰田さよ
23	平成30年1月20 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	24	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(タ～ハ) 会話:友達を遊びに誘う お願いをする 道を尋ねる	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 平林道子	菰田さよ
24	平成30年1月27 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	27	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(マ～ワ) 会話:冠婚葬祭 相手がOKか聞く パーティーの買い出しをする	大野伸次 細野高宏 佐分巧尚 内田 貴子 徳竹礼圭	菰田さよ
25	平成30年2月17 日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市 多文化共生センター フレビア	17	文字・語彙・会話	文字:カタカナ復習 会話:家族の話 料理の作り方 地震が起きたとき	大野伸次 田牧恵子 佐分巧尚 佐藤有莉 徳竹礼圭	菰田さよ

実施内容【日曜日】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年6月4 日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	19	会話・ロールプレイ	食事の時のマナー	菰田さよ	玉置啓二 古沢光子 山田久子 木村 蕃 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
2	平成29年6月11 日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	23	会話・ロールプレイ	市役所での尋ね方	菰田さよ	石川英明 山田久子 永田泰聖 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
3	平成29年6月18 日(日) 13:30～15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	21	会話	市役所へ行く(可児市役所)	菰田さよ	石川英明 玉置啓二 中島 薫 永田泰聖 渡辺 美也子

4	平成29年7月2日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	19	会話・ロールプレイ	自分の希望を言う	菰田さよ	神谷明子 山田久子 木村 蕃 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
5	平成29年7月9日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	18	会話・ロールプレイ	駅で・・・	菰田さよ	石川英明 山田久子 渡辺 美也子
6	平成29年7月23日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	15	会話・ロールプレイ	事故が起きたら？	菰田さよ	神谷明子 中島薫 山田久子 渡辺 美也子
7	平成29年7月30日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	16	会話・ロールプレイ	友達を紹介する	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 古沢光子 山田久子 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
8	平成29年8月6日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	9	会話・ロールプレイ	人を誘う	菰田さよ	石川英明 玉置啓二 古沢光子 木村 蕃 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
9	平成29年8月20日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	23	会話・ロールプレイ	経験や思い出を話す	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 中島薫 古沢光子 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
10	平成29年8月27日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	24	会話・ロールプレイ	電話の話し方	菰田さよ	石川英明 神谷明子 中島薫 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
11	平成29年9月3日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	13	会話	大切にしていることば	菰田さよ	石川英明 神谷明子 横田裕子 山田久子 木村 蕃 渡辺 美也子
12	平成29年9月10日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	21	会話・ロールプレイ	道案内	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 古沢光子 山田久子 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
13	平成29年9月24日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	24	防災	防災ワークショップ	〔講師〕 山田久子 住吉エリオ 住吉ベドロ 〔指導者〕 菰田さよ	石川英明 古沢光子 渡辺 美也子

14	平成29年10月1日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	25	防災	防災まちあるき	〔講師〕 山田久子 住吉エリオ 住吉ペドロ 〔指導者〕 菰田さよ	中島薫 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
15	平成29年10月15日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	28	会話	一週間について話す	菰田さよ	石川英明 古沢光子 山田久子 安居純 渡辺 美也子
16	平成29年10月22日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	16	会話・ロールプレイ	祭り	菰田さよ	古沢光子 木村蕃 渡辺 美也子
17	平成29年11月12日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	22	会話・ロールプレイ	ごみの出し方	菰田さよ	古沢光子 木村蕃 渡辺 美也子
18	平成29年11月19日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	19	会話・ロールプレイ	趣味・好きなこと	菰田さよ	石川英明 中島薫 古沢光子 渡辺 美也子
19	平成29年12月3日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	20	会話・ロールプレイ	買い物	菰田さよ	石川英明 神谷明子 山田久子 平林道子 渡辺 美也子
20	平成29年12月17日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	11	会話・ロールプレイ	中国料理	菰田さよ	石川英明 山田久子 渡辺 美也子 トウ・ジェ
21	平成29年12月24日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	12	会話・ロールプレイ	お正月(年賀状)	菰田さよ	石川英明 中島薫 古沢光子 安居純 カラビナス・アルリー 渡辺 美也子
22	平成30年1月14日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	15	会話	2018年の目標(書き初め)	菰田さよ	石川英明 古沢光子 山田久子 安居純 伊藤章子 渡辺 美也子
23	平成30年1月21日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	22	会話	防災についての 「やさしい日本語」を考える	菰田さよ	石川英明 神谷明子 古沢光子 山田久子 木村蕃 渡辺 美也子

24	平成30年1月28日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	26	会話・ロールプレイ	好きな写真	菰田さよ	石川英明 神谷明子 中島薫 カラビナス・アルリー 伊藤章子 渡辺 美也子
25	平成30年2月18日(日) 13:30~15:30	2	可児市 多文化共生センター フレビア	16	料理	ひなまつり	[講師] 南谷弘子 [指導者] 菰田さよ	石川英明 神谷明子 古沢光子 カラビナス・アルリー 伊藤章子 渡辺 美也子 西尾範子 木原幸子 都築範子 柴田郁子
実施内容【中上級】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年7月2日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	5	病気やけがのとき 病院で治療を受けるⅠ	・いろいろな病気の症状 ・受診する科	長谷川すま子	—
2	平成29年7月9日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	11	病気やけがのとき 病院で治療を受けるⅡ	・自分の症状を医師に言う ・医師の指示がわかる	長谷川すま子	—
3	平成29年7月23日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	9	薬を利用する	・薬の種類 ・薬の飲み方、使い方	長谷川すま子	—
4	平成29年7月30日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	4	商品情報を理解する	・商品に書かれた情報を読み取る ・折り込み広告や店頭広告 ・店内放送で情報を得る	小野木政子	—
5	平成29年8月6日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	7	飲食店を利用する	・店毎に受けられるサービス ・電話で飲食店を予約する ・メニューを選んで注文する	小野木政子	—
6	平成29年8月20日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	11	対面販売で購入する	・店で試着する ・欲しい服のイメージ、素材、サイズを店員に伝える ・気に入ったら買う、気に入らなかつたら断る	小野木政子	—
7	平成29年8月27日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	9	銀行を利用する	・ATMの使い方 ・口座開設、係員の説明を理解する ・口座の申込用紙の記入	小野木政子	—
8	平成29年9月3日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	10	作文を書く	作文コンテストへの応募作品を仕上げる	小野木政子 田中安希子	—
9	平成29年9月10日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	14	公共交通機関で移動する	・窓口で目的地への行き方を聞く ・時刻表、路線図の見方 ・駅の表示	田中安希子	—
10	平成29年9月24日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	14	タクシーを利用する	・タクシーを呼ぶ・止める ・タクシーに乗って、行き先を言う ・タクシー内の表示	田中安希子	—
11	平成29年10月1日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	19	徒歩で移動する	・住所表示 ・地図を見て、目的地まで行く ・人を呼び止めて、目的地までの道を聞く	田中安希子	—
12	平成29年10月15日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	23	地震について理解する	・地震が起きる前に、何をしておけばいいか ・地震が起きた時、どうすればいいか ・地震が起きた後、家族との連絡	田中安希子	—

12	平成29年10月 22日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	13	大雨・台風について 理解する	・天気予報 ・災害のことば ・雷から体を守る	田中安希子	—
13	平成29年11月 12日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	15	緊急事態に備える	・エリアメール ・Jアラート ・エリアメール、Jアラートを聞いて 見て、どうするか	田中安希子	—
14	平成29年11月 19日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	15	人とかかわる	・私的な場面での自己紹介 ・仕事上の公的な自己紹介 ・相手や状況に応じた自己紹介	小野木政子	—
15	平成29年12月3 日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	7	手伝いを申し出る	・自分から話しかけ、手伝う ・何かしてもらったことに対して、 感謝する ・相手によって言い方を変えて、 申し出る	小野木政子	—
16	平成29年12月 17日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	10	人とかかわる	・お祝い、葬式、お見舞いの日本の 習慣 ・日本の習慣を人にきく ・習慣や相手の好みを考え、 プレゼントの相談をする	小野木政子	—
17	平成30年1月14 日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	6	市役所との関わり	・自分の住所を書く ・市役所でできることは何か	長谷川すま子	—
18	平成30年1月21 日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	11	ごみの出し方	・ごみの種類 ・ごみの分別	長谷川すま子	—
19	平成30年1月28 日(日) 15:45~16:45	1	可児市 多文化共生センター フレビア	16	地域社会との つながり	・地域社会にあるものを知る ・地域社会のいろいろな行事	長谷川すま子	—

実施内容【子育て】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年6月24 日(土) 9:30~12:00	2.5	可児市勤労者 福祉総合センター レポート可児	13	「ライフプラン ニング」 保護者に知って もらいたいお金の こと	幼稚園と保育園の違い、 小学校入学のためにお金が いるのか、 中学の部活、進学先の種類 教育費、学費相談 貯金と学資保険について学ぶ	〔講師〕 福田シェンファー 〔通訳〕 福田シェンファー (0.5h) 〔指導者〕 菰田さよ 吉田よしえ (0.5h)	菰田さよ 吉田よしえ (1.5h) 木原カリナ ベセット・リリアン
3	平成29年10月 21日(土) 9:30~13:00	3.5	可児市 総合会館	27	「栄養について」 給食体験	バランスよく栄養を摂るために、 エプロンシアターを使いながら、 栄養について学ぶ 日本の小学校の給食は、 どんなものを食べるか どんな味か、体験する	菰田さよ 南谷弘子 吉田よしえ	西尾範子 吉田よしえ 木原カリナ 渡辺幸子
4	平成29年12月 16日(土) 9:30~12:30	3	可児市 総合会館	6	「お弁当講座」	彩りのよい日本風のお弁当を 作る	〔講師〕 南谷弘子	西尾範子 木原幸子 南谷千賀子 吉田よしえ 木原カリナ 渡辺幸子
5	平成30年2月17 日(土) 9:30~12:00	2.5	可児市勤労者 福祉総合センター レポート可児	5	子育ての悩み	国によって、子育ての方法が違う ため、日本での子育ての悩みが 生じる。子ども相談センターの 専門家をお招きし、 不安や悩みを解消した。	〔講師〕 大野 〔指導者〕 吉田よしえ	吉田よしえ 木原カリナ 渡辺幸子

(1) 特徴的な活動風景 (2～3 回分)

【土曜日】

○取組事例①

【第6回 2018年7月22日】

会話Ⅰグループのこの日のテーマは「電車の乗り方を聞く」。教室内で券売機の写真や路面図を見ながら、教室内で駅に行った場面で使用する語彙や、切符の買い方、「～へ行きますか?」や、「～へ行きたいのですが」などといった文型も用いた、駅員への尋ね方も学習した。その後、実際に教室の最寄駅に出向き、見て、体験しながら実際に学習したことを活用した。実際に現場に行くことで、教室内では学習していなかったことの発見や、普段目になっているが疑問になっていたことと日本語学習が結びつきながら、学習できたように思われる。



○取組事例②

【第20回 2017年12月9日】

普段の日本語教室の様子。(写真左) 会話Ⅰグループの「場所を聞く」では、「～はどこですか」という文型を教室内ではスーパーやデパートの中を仮定して学習した後、実際に教室会場のスタッフにトイレの場所を聞くなどすることができた。



【日曜日】

○取組事例①

【第19回 2018年12月3日】

テーマは「買い物」。様々な買い物の場面があるが、今回は洋服（その他衣類）の購入場面でのものに制限した。少人数グループで会話する際に、その買い物で使う語彙や話し方を学習した。その後、買い物に行く人（学習者）、その友達（日本語サポーター）、店員（日本語サポーター）の3役に分かれ、サイズ・色・どんなものが欲しいかの申し出る場面練習をした。練習をしている学習者は、申し出る際のいろいろな日本語の言い回しや、それを聞いている学習者からは、「試着? 試着と試食は一緒ですか?」「ぴったりと、ちょうどいいは一緒ですか?」「製品と商品の違いは何ですか?」など、学習者が普段、生活で使っている日本語と照らし合わせながら、学習しているのだと思われる反応があった。もっとリアリティを持って学習ができるように、実物を持ってきたり、実際の店舗に行き学習ができるとなお良いと感じた。



○取組事例②

【第20回 2018年12月10日】

いつもは日本語学習者である、中国の2名に講師を依頼し、企画～準備・当日まで一緒に作業をし、教室内で料理教室を実施した。料理で使う日本語（材料や動詞）を繰り返しながら餃子を作った。参加者は11人と比較的少ないほうであったが、ひとりずつ色々な話を深めることができた。講師をしてくれた2名は、「自分の国の料理が知ってもらえてうれしい」という声があった。そのうち1名は、この後の教室にも続けてくるようになり、この体験が少し何か自信になったようにも感じられる。この2名の他に、よく通室している生活者の中国人学習者にも依頼をしたが、残念ながら予定があわなかった。今回は、中国語語学講座の受講生など、地域全体にもこの料理教室を周知し、地域の日本人と一緒に活動したい。



【子育て】

○取組事例①

【2017年6月24日】

「ライフプランニング」

目的：幼稚園と保育園の違い、小学校入学のためにお金があるか、中学の部活、進学先の種類、教育費、学費相談
貯金と学資保険について学ぶ

日本での教育費は高額なので、子どもの将来のためにプランを考える必要がある。大学まで子どもを行かせたいのでこれから、貯金をします。と、保護者から意見があった。



○取組事例①

【2017年10月21日】

栄養について：給食体験

日本の幼稚園、保育園そして小学校の給食に出てくる色々なメニューを疑似体験した。母国のものと日本の給食の食材や味が違うことを保護者や子どもにも分かるように栄養士の方の考案で実施した。

実施アンケート：

- ・給食は子どもたちのために、栄養とバランスが考えられています。
- ・とてもおいしかったのですが、子どもには苦手な味だと思います。
- ・家では野菜も少しずつ食べてもらおうと思いますが、無理やり食べさせていません。
- ・栄養について、学べたことが良かったです。



(2) 目標の達成状況・成果

〔土曜日〕

この教室運営の方法に期待した通り、学習者が「ステップアップ」することができた。Ⅱグループから学習をはじめ、現在はⅢグループを卒業し、文字クラスで漢字を学習している学習者もいる。また、その反対に、Ⅲグループでは自分のレベルでは、難しすぎるため、Ⅱグループを卒業したのだが、再度Ⅱグループで学習したり、自分のレベルと合っていない内容に惹かれグループ間を移動するなど、意欲的に自分が習得したいグループで学習する姿勢が見られたのも成果の一つと言える。指導者側も、以前は、学習者が来てから、即席でグループを作り、今日何をするか決めていた状態から、今年度、体制を整えたことにより、事前の準備もしやすくなったのではないと思われる。

〔日曜日〕

今年度は、ポートフォリオの効果もあり、継続して来る学習者が目立ち始めた。この日本語教室に来て、いつも会う学習者同士がどんどん仲良くなり、国籍が違う同士で、お互いが日本語で話している姿を見て、この教室が学習者にとって“ひとつの居場所”になっているようにも感じられた。毎回も学習者が記入する学習シートの感想からもその様子を感じ取ることができる。また、ほぼ毎回設定している場面練習では、より実践の場面に近づいた練習をすることができた。それが、学習者の普段の生活の中に活かされているかどうかまでは確認できていないことは、課題である。昨年度、日本語サポーター間の考え方の違いによる教室運営の問題もあった。その点については、毎回の授業後にサポーター全員で反省会を実施している。反省会の中では、一人一人の学習者の様子や、次の回のテーマについての内容検討をすることによって、関係者全員で教室・授業づくりができていくように感じられるようになった。

〔中上級〕

授業時間が一時間しかない中、CanDoリストを作成したために、授業内容の焦点をしぼって、進めることができた。昨年度と違い、初級クラスから、中上級クラスに上がる学習者が増え、着実に語彙や表現を増やすことができた。

〔子育て〕

日本の文化や生活習慣が違うので、子育ての日本語教室で学んだことは、ためになったと参加者からの感想があった。

- ・日本での教育費は高額なので、子どもの将来のためのプランを考える必要がある。これから、日本で生活し、子どもたちには日本の大学まで行かせたいと思っている保護者が多いので、無駄使いに気を付けて、子どものために貯金する必要があると分かってもらいたい。
- ・学校でお弁当が必要になった時、タコやカニの形になるウィンナーの切り方、卵焼きの巻き方、など子育ての日本語教室で学んだことが役に立つ。日本のお弁当の彩りや野菜も入れるようにしてほしい。成長期の子どもは特に食事の栄養に気を付けてほしい。
- ・日本で子どもを育てることは、母国の生活と180度変わる。早朝に出勤し、帰宅は遅い。土曜日出勤することもあるため、家族との触れ合いは希薄になる。その忙しい中で、疲れたり、イライラしたり、子どもとの関わる時間が少なくなる。それでも子どもとのコミュニケーションはもっと大切に、夫婦のコミュニケーションも大事にしたい。自分たちの国では、子どものしつけのために、体罰を強いることもあるが、日本ではそれは虐待にあたることを覚えてもらいたい。周りの人たちに誤解されないように専門の方に指導してもらった。

日本の環境、生活習慣、文化が違う国で子育てをする中で、外国人には知らない情報がたくさんある。その情報は、簡単にかつ分かりやすく保護者に伝えるために、日本語教室での場が必要だと感じた。

(3) 今後の改善点について

〔土曜日〕

- ① 5クラスを設置し、ステップアップできる環境を整えているのだが、実際に指導者が使う日本語は、既習文型以外のものを使用されているため 文型積み上げが行われておらず、学習者に混乱をきたしている可能性がある。レベルにあった内容、指導方法の検証、改善が必要である。それに伴って、毎回のテーマや、CanDoリストの評価項目について、それを活用した授業展開ができないという指導者もいた。今年度から取り組んだCanDoリストだが、次年度は、見直しも含め、定着に向けて、検証していきたい。
- ② 日本語ゼロレベルの学習者が来た際は、会話ではなく、語彙を増やすことを目的とし、初回から文字クラスに誘導する。また、文字クラスを卒業した後、会話Ⅰグループに上がっても、既にグループ内でレベルのばらつきがあり、指導者から指導が難しいといった声もあるため、文字クラスと、会話Ⅰグループのバランスが難しく、この2つのグループをつなげるような新規グループを設けるかどうか検討していきたい。

〔日曜日〕

日本語ゼロレベルの人が継続して教室に来ないことと、地域とのつながりが希薄になることの2点が大きな課題である。週に1回の教室の中で学習できる範囲と、学習者の期待している学習度合いや方法がマッチングされていないのかもしれない。日本語教室で、楽しく「話す」こと、生活の中で実際に使えるように「練習」すること、どちらが学習者のニーズに合っているのか、検証しなければならない。地域とのつながりについては、教室がひとつの居場所となって、日本語サポーターと学習者との信頼度を高めるのはいいのだが、地域との関わりがまだまだ少ない。「学習者が地域で安心・安全に暮らせるようになる」という目標を達成するために、日本語教室の活動を見直す必要がある。

〔中上級〕

高度な語彙や表現を学んではいるが、それを実際に生活の中で活用しているかどうかの検証は行っていない。授業内容は、学習者との会話形式ではないため、知識としては学んだとしても、会話練習がされていないため、使い方が正しいかどうかの確認はできておらず、次年度は、授業内容を見直し、改善へとつなげていきたい。

〔子育て〕

申込み数は多いのだが、当日の出席者は、減ってしまう。参加人数の確保のため、告知方法の見直しや検討が必要である。

4	平成30年2月2日 (金) 10:00~12:00	2	ザイオン・ラー ニングセン ター	13	防災	・緊急地震速報の音声を確認し、地震発生時にどのように自分の身を守るのか練習する。 ・節分の豆まきを体験した	山田久子 カミリング・マルジ	住吉エリオ洋一 村上ヴァネッサ 細田チアゴ 住吉ベドロ
5	平成30年3月2日 (金) 10:00~12:00	2	アガベ・プレス クール	25	防災	・緊急地震速報の音声を確認し、地震発生時にどのように自分の身を守るのか練習する。 ・雛人形を折り紙で作成した	山田久子 カミリング・マルジ	住吉エリオ洋一 村上ヴァネッサ 中美保子
6	平成30年3月4日 (日) 13:30~16:30	3	牧野交流 センター	5	防災	・災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 ・避難食体験 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える ・会場からコーボ牧野まで歩いて帰りながら、道沿いにある災害時に危険な場所や、安全な場所を探す	山田久子 住吉エリオ洋一	村上ヴァネッサ 中美保子 土井チアゴタカン 細田チアゴ カミリング・マルジ 臼井尹保

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

○取組事例①

【第1回 平成29年9月3日】

- ・ 可児市桜ヶ丘公民館で実施された「避難所開設訓練」があることを可児市防災の会から聞き、日本語教室で希望者を募り参加した。
- ・ 避難者カードに各自で氏名・住所・家族構成などを記入した。
- ・ AED講習では心肺蘇生法からAEDまでの一連の流れを消防士に指導いただきながら実際にAEDを使用しながら体験した。
- ・ タタミ搬入訓練にも参加、実際にやってみることでなぜタタミを体育館に搬入しなければならないのか考え、避難した時に寝たりする場所が体育館で、そこに数日間滞在することもある、ということを理解することが出来た。
- ・ 避難所で1人に与えられるスペースを確認できるコーナーや簡易トイレの体験コーナー、サバイバルシートなどの防災グッズ、東日本大震災時の避難所の写真などの展示物もMICHのメンバーが解説・通訳しながら見てまわった。避難所の役割や受けられる支援などを理解することが出来た。
- ・ 避難食体験では豚汁を試食、宗教上の理由で食べられない参加者もいたことで、それぞれにとって必要な準備が違うことを考えることが出来た。



○取組事例②

【第5回 平成30年3月2日】

- ・ 地震発生時に自分の体を守れるようになることを目標に取り組んだ。
- ・ 日本語にあまり触れる機会のない子供たちであった為、上・下・横や身体の部位を日本語で確認することから始めた。
- ・ 「地震」の言葉の意味を確認し、地震の前には緊急地震速報が流れるかもしれないこと、実際の音を確認した。
- ・ 地震発生時にどんなことが起こりうるのか、家の中や教室などシチュエーション毎に描かれている絵本「じしんのえほん こんなときどうするの」を緊急地震速報の音も交えて読み聞かせをした。
- ・ 地震発生時には「ダンゴムシのポーズ」をとって、自分の身を守ることを伝え、練習した。
- ・ 「じしんのえほん」に戻り、様々なシチュエーション確認した後でダンゴムシのポーズをどこでするのが安全なのか子どもたちと検討し、何度も緊急地震速報に合わせて練習をした。
- ・ 避難する際には、おしゃべりをせずに先生の言うことに聞くことを確認した。
- ・ 日本の文化にも触れてもらおうと、雛人形を折り紙で作成した。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・ 今年度は新しくアガベ・プレスクールなどのフィリピンのプレスクールや外国人住民がたくさん住んでいるアパート「コーポ牧野」の住民向けに防災ワークショップを実施した。事前のヒヤリングでは、どちらも災害時のことを考えると園児や住民に防災について伝える必要性を感じてはいるが方法がわからないとのことだった。実施後のヒヤリングでは、防災について教えるのではなくゲーム交えながら楽しく考えることが出来た、と好評価をいただいた。
- ・ 可児市防災の会からアドバイスをいただきながら、就学前の園児に向けた新しい防災ワークショッププログラムを作成することが出来た。
- ・ 今まで可児市の防災訓練に合わせて日本語教室で防災ワークショップや防災まちあるきを実施してきたが、地域自治会の「避難所開設訓練」に参加することで更なる連携を持たせることが出来た。
- ・ 実施後のアンケートで「今日初めて聞いた日本語」を聞いたところ、ほとんどの参加者が「避難」「避難所」をあげていたが、「危険」「安全」「にげる」をあげる参加者も多かった。感想としては、「（避難所開設訓練に）来てよかった。日本では、こんなに色々考えていると知ってびっくりした。自分の国でも同じように準備できるとたくさんの人が助かると思った。」や「牧野交流センターに初めて来た。地震の時ここに来れば良いとわかってよかった。」などがあつた。
- ・ 取組実績や参加者からの感想から取組目標については概ね達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

- ・避難所体験（地域の防災訓練）には日本語教室の学習者だけでなく、その地域に住む外国人住民を巻き込んでいくことも検討していくことが必要。また、コーポ牧野住民向け防災ワークショップでは、会場の牧野交流センターのことを知らない人もいたようで、アパートから会場までみんなで一緒に移動するなどの参加者を増やすための工夫が必要。
- ・避難所体験のような自治会の防災訓練に他の地域でも参加できるよう自治会など地域団体と連携をしていくことが必要。
- ・「やさしい日本語会議」開催により可児市防災の会や自治会と連携を深めることは出来たが、災害時に必要なやさしい日本語を検討するまでには至らなかった。引き続き連携を深めつつ検討を継続していく。

<取組4>									
取組4	取組の名称		2017年度 KIEA成果発表会						
	取組の目標		本事業の取組の成果発表を行う 他教室との情報交換や情報収集をし、教室の見直しを図る						
	取組の内容		当協会が運営する外国人を対象とした教室全ての成果発表会で、大人も子どもも学習者が一年間教室で学習した成果を発表した。 午前:本事業取組事例・成果報告 中間:地域の企業の事例報告 午後:各教室成果発表 会場には、各教室の活動の様子をパネル展示した。 当日、参加者アンケートを実施した。						
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	取組事例報告の中で、空白地域の取り組みを発表した。						
	取組による体制整備		行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者、日本語学習者が来場したことにより、本事業の取組を周知し、次年度以降の取組に関心を持っていただいた。						
	取組による日本語能力の向上		成果発表会に参加することにより、日本語を強化できた。						
	参加対象者		日本語学習者、日本語教室の関係者、行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者				参加者数 (内 外国人数)	250人 (165人)	
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政						
	開催時間数		総時間 5時間(空白地域 1.5時間)						
	主な連携・協働先		行政、地域の企業、日本語教室等各教室						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
									127
		ブラジル以外の国別は、把握できていません。							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成30年2月4日 (日) 10:00～15:00	5	可児市 多文化共生センター プレビア	250	成果発表会	☐ 本事業取組事例・成果報告 ☐ 地域の企業の事例報告 ☐ 各教室成果発表	〔発表者〕 各務真弓 近藤利恵 山田久子 吉田よしえ OzakiMerryLuna 菰田さよ アラシロ・エジソン アレマニア・ハルビ 邑井リエ 坂崎雄介 星原イスラエル	吉田よしえ 山田久子 アレマニア・ハルビ バィロン・チャック ラヤモン・ジュナライザ カリェト・ビタソン アカムバト・カズミ アマト・アレ バントイ・リリベッ アマト・アントニー アトス・ケンドラ 住吉・レフォスコ・ベドロ	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 2018年2月4日】

本事業の各取組の成果発表を行う中で、日本語学習者にも発表の機会を設け、実際、学習の成果を来場者に見ていただいた。また、外国人を直接雇用した地域の企業2社に、企業が求める人材や、雇用に至るまでの体験を話していただいたことで、日本語学習者や支援者は、今後の支援のあり方について、振り返ることが出来た。午後には、可児市国際交流協会が運営する外国人向けの全教室の子どもたちが順に、ステージにて一年間学習した成果を発表した。会場には、各教室の活動の様子をパネル展示し、来場者に見ていただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

事例報告では、日本語教室の学習者が、授業でどんなことを学んだのか、寸劇を交えて、来場者の皆さんに披露した。(参加者13名、診療科:病気の種類によって、かかる科が違う 擬態語:ズキズキ、ゾクゾク 受診室:医者と患者の会話 薬局:薬剤師と患者の会話 を日本語で演技) 構想段階では、当日発表してくれる学習者がどのぐらいいるのか、どのぐらい日本語が覚えられるのか不安だったが、2回通し練習をただけで、しっかりと台本を暗記し、立派に発表できた。学習者自ら、当日の朝に最終練習をもう一度お願いします。と頼んできたことが感動的だった。そして、誰一人と欠席者はなく、みんな楽しんで、演技が出来たため、会場の皆さんからもたくさんの拍手をいただいた。シナリオを暗記することによって、生活でも応用することができる。また、ポートフォリオの報告の際には、継続して日本語教室にきた上位10名を来場者の皆さんの前で、表彰をした。皆さん、誇らしい表情だった。来年度も是非、壇上に上られるように頑張ってもらいたい。

外国人を直接雇用した地域の企業2社に、企業が求める人材や、雇用に至るまでの体験を話していただいたことで、日本語学習者や支援者は、今後の支援のあり方について、振り返ることが出来た。午後には、可児市国際交流協会が運営する外国人向けの全教室の子どもたちが順に、ステージにて一年間学習した成果を発表した。会場には、各教室の活動の様子をパネル展示し、来場者に見ていただいた。日本語学習者の中から、午後の部の司会進行をお願いした。学習した日本語で進行を確認したり、日本人担当者と滞りなく、発表会を進めることができたことも、日本語学習の一つの成果として、認めたい。

(3) 今後の改善点について

今年度、中上級者クラスの方々が、成果発表をしたので、日本語での練習もスムーズにできた。次年度は、初級者の方々も発表に参加できるように、工夫を凝らしたい。日本語教室の関係者がまだまだ成果発表に向けての関わりが薄いと感じる。次年度も同じ時期に成果発表会を行う予定なので、関係者皆が、一丸となって、発表会に向けて取り組むような体制を整えていかなければならない。

＜空白地域＞									
空白地域	取組の名称		空白地域での取組: 岐阜県加茂郡坂祝町						
	取組の目標		坂祝町役場 及び 坂祝町教育委員会への働きかけにより、外国人支援のネットワークを作る。 日本語支援者になるための呼びかけ 及び 養成						
	取組の内容		■坂祝町役場との連携構築 ■日本語支援者養成講座開講 日本語教室立ち上げに向けて、サポーターを募集した。集まった地域住民の方々と、どんな日本語教室を作りたいか、意見交換した。まずは、どんな日本語教室があるのかということで、当協会の日本語教室(取組2)を見学してもらうことにした。そして、自分たちには、何ができるのかという振り返りの中で、外国人向けお料理教室の日本語サポーターにチャレンジした。						
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	日本語支援者養成講座 意見交換と 日本語教室体験						
	取組による体制整備		日本語支援者養成講座には、坂祝町役場の職員にも参加していただき、日本語教室開講に向けた準備を一緒に行った。将来的に坂祝町役場が自立して、日本語教室運営ができるような体制を整えた。						
	取組による日本語能力の向上		特になし						
	参加対象者		坂祝町在住外国人、外国人を支援したい人、坂祝町役場				参加者数 (内 外国人数)	23人 (11人)	
	広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政、FMらら						
	開催時間数		総時間 9.25時間(空白地域 9.25時間)						
	主な連携・協働先		坂祝町役場、坂祝町教育委員会、坂祝町地域住民						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		11							
日本		12人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年7月15日 (土) 10:00~12:15	2.25	坂祝町 中央公民館	6	養成講座	・どんな日本語教室にしたいか ・日本語教室立ち上げの心構え ・今後、どのような手順で進めていくか	近藤利恵	登田アンナ (上杉陽介)	
2	平成29年9月9日 (土) 10:00~12:00	2	坂祝町 中央公民館	4	養成講座	・可児市国際交流協会の日本語教室を見学して、どう感じたか ・私たちができること	近藤利恵	登田アンナ (上杉陽介)	
3	平成29年11月4日 (土) 12:45~17:00	4.25	坂祝町 中央公民館	[受講生] 6 [外国人] 10	養成講座 (パン作り)	・お料理教室 日本語サポートについて ・近隣地域住民の外国人との交流を図り、質問や会話をしながらニーズ調査を行う	[講師] 平井高子 近藤利恵	近藤利恵 登田アンナ (上杉陽介)	
4	平成29年12月5日 (火) 18:00~19:30	1.5	坂祝町 中央公民館	5	養成講座	・前回のパン作りの交流の振り返り ・次回の交流について ・次年度以降の坂祝町日本語教室開設に向けて	(上杉陽介)	—	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 2017年11月4日】

お料理教室の開催。(パンとジャム作り)

支援者も学習者と一緒に、パンを作った。初めてのパン作りに奮闘し、会話が生まれ、みんな楽しく、終わることができた。パン作りには、発酵や焼き時間があるのが良かった。その時間に日本で生活して困っていることはないかなど、聞き出せたり、電話番号を交換したり、坂祝町住民同士のふれあいができた。



(2) 目標の達成状況・成果

坂祝町は、人口8244人のうち、外国人住民数が551人で 比率が6.7%だが、現在、日本語教室はない。坂祝町役場、教育委員会は、日本語教室の必要性を感じておられ、私たちの働きかけに賛同して下さいました。昨年度末、日本語教室に立ち上げに向けて、養成講座を開いたところ、集まった受講生は、住民の方もいらっしゃったが、教育長はじめ、教育委員会、学校の先生だった。生活者としての外国人のための地域の日本語教室とは、違う教室を望まれている学習補習の教室だった。今年度、再度、仕切り直して、募集して、集まったのが、6名。条件は、日本語教室立ち上げに関わってくれる人。この集まってくれた方が自分たちの手で無理なくできる範囲で日本語教室を立ち上げたかったのだが、尻込みして、リタイアする方もいた。地域の日本語教室ってどんな感じか。という意味で、当協会で行っている(取組2)日本語教室を土曜日も日曜日も見学してもらった。受講生の感想は、「可児だからできる」だった。逆効果になった印象を受けた。それでもまだ、立ち上げに関わるために、残って下さっている受講生に、自分たちがどのように生活者(外国人)に寄り添えるのか、考えていくうちに、「外国人と交流したい」という熱い思いをお料理教室(パン作り)にぶつけてみることにした。パン作りには、待ち時間があるためその時間に、日本で生活して困っていることなど、聞き出したり、電話番号の交換をしたり、とても微笑ましい光景があった。少しずつ距離を縮めることで、次、自分がやれることを思い付き、それを養成講座の意見交流の場で、日本語教室の形にしていけるように、次年度も続けていきたい。

(3) 今後の改善点について

日本語教室立ち上げに向けた日本語支援者養成講座に集まった受講生は、日本語教室というよりも、交流型を目指していた。しかし、年に数回、お料理教室のような交流型を実施しても、いつか行き詰まりを迎えてしまうかもしれない。生活者としての日本語を身に付けるための定期的に開催される日本語教室を作るために、次年度は、坂祝町にある中日本自動車短大の留学生別科の日本語講師を巻き込んで、日本語教室立ち上げに向かいたい。骨子ができたら、受講生方には、日本語教室のサポーターとしての役割を位置づけ、日本語支援者養成講座の内容に織り込んでいきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

今後も外国人の受け入れによる人数増加や定住化傾向が高まると考えられ、地域で暮らす外国人に、日本語習得のみならず、様々な日本文化も理解してもらいたい。指導者からの一方的な詰め込みではなく、お互いの文化を享受するための機会として、地域日本語教室の役割は大きい。そこで学び得たものを生活者として、どう活かしていくのかを学習者も指導者も考える場として、この事業に取り組む。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

ポートフォリオの取組によって、指導者と学習者の相互関係を深めることができた。従来は、一方的かつ、学習者個人ではなく、教室全体として授業運営をしていたのが、学習者一人一人を管理してあげられるようになった。また、CanDoリストの活用は、学習者が出来るようになることが明確化され、教室関係者全員と共通認識をもつことで、授業内容の見直しにつながった。ポートフォリオの取組が学習者の中でも意味のあるものに変化していくのが分かった。継続して来る学習者が目立ち始め、その頑張りを成果発表会で表彰し称えることができた。取組4の成果発表会で、学習者が生き生きと日本語で発表できたことは、日本語学習の成果の表れではないかと思われる。空白地域の取組み(坂祝町)については、養成講座で集まった受講者(今後、坂祝町でサポーターになり得る方々)が、自分たちで発案し、外国人と交流できる お料理教室(パン作り)を開催した。常に受講者が主体的に考えられるような養成講座を組み、坂祝町の職員と連携しながら、自立に向け、動き出せた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

成果発表会の中で、ポートフォリオの取組みを発表したことで、来場されていた行政の方々が学習者を人材として認めていこうとしている仕組みに賛同してくれた。また、外国人を直接雇用した地域の企業の皆さまも日本語教室の学習者の発表を見て、素晴らしいですね、こんなに日本語が話せるようになるのですね。と声をかけて下さった。少しずつでも、私たちの取組みが周知され、日本語学習者の頑張りを人材として、認めてもらえる機会や仕組みを今後も作っていきたい。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語学習者を募集するため、日本語教室の開催を毎月1回発行される「広報かに(多言語版)」 「多言語情報誌」に掲載し、広く配布し、案内した。日本語教室で実施した内容は、当協会のFaceBookにアップし、周知させた。当協会から毎月2回送信されるメルマガには、早い段階から成果発表会の告知をし、多くの人が目にする学校や公共施設には、ポスターサイズのチラシを配布し、掲示を呼びかけた。坂祝町は、養成講座開始の呼びかけ、及び実施報告を広報に掲載した。事業成果の地域への発信等については、取組4の成果発表会の場で、地域住民、行政、学校関係者、日本語関係者、日本語学習者に広く周知させた。また、可児市及び市教育委員会に後援になっていただいたことで、成果発表会の報告も併せて行うことが出来た。

(5) 改善点、今後の課題について

CanDoリストの3段階評価において、授業前と授業後の評価に変化がない、または評価が下がったことに対して、指導者が学習者にフォローをしていないため、結果的にただ、渡された用紙に項目を埋めていくだけの作業で終わってしまっている。次年度は、これを課題として捉え、どう改善できるかを見直し、また、CanDoの内容が、学習者が求めているものなのかどうかも併せて、検証していく必要がある。また、それによって、授業内容、授業構成も見直す必要性も生じる。今年度初めて実施した成果発表会を恒常化し、関わる指導者、学習者全員が発表会を一つの目標に取り組んでいけば、日本語学習に励む姿勢が築けるのではないかと思われる。“やさしい日本語”の取組みについては、関係各所と連携を深めることは出来たが、災害時に必要なやさしい日本語を具体的に検討するまでには、至らなかったため、次年度以降、取り組みができるように体制を整えていきたい。空白地域については、養成講座の中で、実際に教室の開催まで気持ちを持っていくことができたのだが、今後は、指導法についても触れ、受講者を増やしていきたい。

(6) その他参考資料



成果発表会チラシ



CanDoリスト(土・日・中上級日本語教室にて各々作成)

